

図書館だより

No. 22

●ザンクトゲオルゲン図書館の思い出

学生総務担当副学長 神学部神学科教授 川中 仁

●教えて! ソフィアンくん

～ 第5回 みんなからの質問に答えます! ～

●上智大学図書館の貴重資料紹介

「日本国の地図海図の地図書」

●図書選定委員お薦めの本

経済学部経済学科准教授 中里 透

●豆知識

「紀要」について



ザンクトゲオルゲン図書館の思い出

学生総務担当副学長
神学部神学科教授
川中 仁



わたしが神学博士号を取得したザンクトゲオルゲン哲学神学大学 (Philosophisch-Theologische Hochschule Sankt Georgen) は、フランクフルトにあるドイツ国内唯一のイエズス会の神学高等教育機関である。小規模ながら、著名な神学者たちを多数輩出し、ドイツ語圏の神学の世界ではよく知られた存在である。ザンクトゲオルゲンの図書館は、神学一般に関して世界有数の蔵書を誇っているが、特にわたしが博士論文を執筆したイグナチオ・デ・ロヨラの霊性の分野に関しては、非常に充実していて重要なものはすべて揃っていた。しかも、図書館は、わたしが生活していた居住棟に隣接していたので、図書館への物理的アクセスという点でもとても恵まれた環境だった。そのため、ザンクトゲオルゲンの図書館で基本的にすべて事足りたが、それでもザンクトゲオルゲンの図書館にない場合は、一冊の書籍、一本の雑誌記事を求めて、ドイツ国内の他大学やローマのグレゴリアナ大学の図書館にまで足を運んだものである。

図書館の体験ということでもす思い浮かぶのは、やはりこのザンクトゲオルゲンの図書館をフルに活用して取り組んだ博士論文執筆作業である。論文執筆のための資料を求め、来る日も来る日も足しげく図書館に通ったものである。わたしの博士論文執筆

は、もっぱら図書館に所蔵された紙媒体の古い文献資料と格闘する、とにかく地味な作業をひたすら続ける毎日だった。電子化などによる最近の図書館をめぐる発展は著しいが、古い文献資料の電子化はまだまだ限定的である。いずれにせよ、こつこつと足でかせぐ地道な作業の積み重ねということは、あらゆる学問分野に共通する図書館利用の基本ではないかと思う。

ザンクトゲオルゲンの図書館でかいま見た、西方キリスト教世界で幾世紀にもわたって営々と積み重ねられてきた知の蓄積は、めまいがするほどに圧倒的だった。同時に、図書館を日々利用する中でいつも思いをはせたのは、所蔵図書の収集、保存、整理のために尽力した先人たちのことである。彼らは、生涯出会うことのない後世の研究者たちのために、今は誰も読まないかもしれないが、いつの日かある研究者がある時点で必要とする文献資料のために黙々と地道な作業を続けてきたのである。ナチス政権下、ザンクトゲオルゲンは図書館の蔵書を守るために大変な苦勞をしたと聞いている。第二次世界大戦中にドイツ国外で発行された雑誌記事を手に取る時、彼らがどれほどの苦勞をしてそれを手に入れ、守り抜いたのかを想わずにはいられなかった。

このように膨大な労力が注がれ積み重ねられてきた知の蓄積の上に、知の営みは築かれてきたのである。幾世紀にもわたってこつこつと積み重ねられてきた知の蓄積が、次の新たな知の展開を生む。人類の知の営みとは、そのようなものである。それは単純に即効性・有用性だけを追い求めるようなものの見方で決してはかることはできない。上智大学は、そのような短期的なものの見方に振り回されず、人類知の営みを継承する知の拠点としての使命を自覚し、知の営みとは何かということについての深い洞察を常にしっかりと保っていたいものである。

「日本国の地図海図の地図書」

上智大学図書館では多くの貴重資料を所蔵しています。
今回はシーボルトに関する貴重資料1点を紹介します。

シーボルトの地理学における功績は、日本および周辺域の地勢を世界的に明らかにしたことです。東アジア進出を図っていた西欧諸国も、鎖国政策をとる日本周辺域の詳細な地形を把握しておらず、樺太に至ってはアムール川流域で大陸と繋がっていると認識していました。シーボルトは1834年に海洋地理の権威とされていたロシアのクールゼンシュテルン提督に日本より持ち帰った地図を鑑定させ、日本の測量技術の優秀さとともに、間宮林蔵が発見した海峡(間宮海峡)により樺太が島であることを認めさせています。

この日本より持ち帰った地図こそシーボルト事件の原因でした。幕府禁制品となっていた「日本図(伊能図)」や「蝦夷全図」など多数の地図を所有していたことで、それらを与えた天文方高橋作左衛門景保や、多くの関係者が処分されます。また、シーボルト自身も約一年間出島に軟禁され、最終的には国外追放の処分を受けることとなりますが、様々な手を尽くして没収を免れた地図により、多くの研究成果を発表します。

1851年に発行された『日本国の地図海図の地図書』は、それ以前もしくは相前後して出版された『日本』に含まれる地図のうちの十六葉を十三葉(表題紙を除く)にまとめたものです。53×72cmの用紙(一葉のみ倍のサイズの二つ折り)に石版印刷※されており、うち九葉は手彩色です。

(シーボルトが)この時期に地理学の研究成果を多数発表した背景としては、それまでシーボルト事件に協力した関係者の身の安全を考慮し発表を控えていたものの、二十年が経過しその影響が少ないと判断したことや、さらに西欧で日本に開国を迫る気運が高まるなか、平和的な開国を進めるために正確な情報を提供し、かつ自らもその交渉に参画するという政治的判断があったと考えられています。

最終的に日本の開国はシーボルトの望みとは異なり、アメリカの武威によって行われたものの、その研究成果は地理学者や航海者の基本資料としてイギリス海軍軍令部の日本海域図の基になるなど、その評価の高さを十分に計り知ることが出来ます。

※石版石を版として印刷するものです。石版石は大理石に似た石でドイツ特産品です。

書名／著者 ◆ Atlas von Land-und Seekarten vom Japanischen Reiche Dai-nip-pon : und dessen Neben-und Schutzlandern... nebst einer Seekarte von der Kuste von China und der Insel Formosa
=「日本国の地図海図の地図書」/ bearbeitet und herausgegeben von Philipp Franz von Siebold

配架場所 ◆ 貴重資料室

請求記号 ◆ G:2354:S54:1851

登録番号 ◆ 824956457

*貴重資料DBの展示室「日本国の地図海図の地図書」より抜粋。





教えて! Q&A ソフィアンくん



～ 第5回 みんなからの質問に答えます! ～



Q1. どうして図書館は、休日
書庫を閉めるのですか?

A1. 休日は安全上の理由などから、
書庫が閉められています。



今回はみんなから
寄せられた質問に
答えていくよ!



Q2. ラウンジとラーニング commons
の大きな違いはなんですか?

A2. ラーニング commons は、多目的学習
スペース。プレゼンの準備のような、学習目
的の場合のみ利用できるんだ。一方、ラウン
ジは特に利用目的の制限はないんだよ。



Q3. 新しくなったグループ
学習室のそれぞれの
いいところは?

A3. ホワイトボードやプロジェク
ターなど、便利な機能がた
くさんあるんだけど、詳しく
は次号で説明します!



Q4. 図書の貸出は最長で
何週間可能ですか?

A4. 貸出期間に加えて、予約が入っていない場合
に一回だけ、貸出期間と同じ期間延長ができ
るよ (ただし長期休暇中を除く)。



Q5. PCルームの利用状況を
ネットで予め見ることは
できますか?

A5. 総合メディアセンターHP内の『教室利
用状況』から確認できるよ。『LIB』のタ
ブを開いて確認してね!
<http://pcinfo.cc.sophia.ac.jp/>



Q6. ネットや電波、Wi-Fi
を図書館で利用する
には、どこが一番繋が
りやすいですか?

A6. 中央図書館内で繋がりがやすい場所は、
3階以上のメインストリート側の閲覧席だよ。
ただし、時間帯など、利用者状況によっても
違うのであくまでも目安と考えてね。



図書選定委員お薦めの本

経済学部経済学科准教授 中里 透

『理科系の作文技術』(木下是雄 著・中公新書)

>> 中央図書館(学部図書(地下1階)) 080:C644:v.624
 中央図書館(学部図書(地下1階)) 080:C644:v.624:2002
 目白聖母キャンパス図書室 407:Ki463:2002



ふと思い立って、何度も開く本がある。それは『赤頭巾ちゃん気をつけて』だったり『ノルウェイの森』だったり『官僚たちの夏』だったりするのだが、今回とりあげる『理科系の作文技術』もその1冊だ。刊行は1981年。版を重ねて、今も売れているすごい本だ。

「理科系の」と銘打たれているが、本書は理系限定の本ではない。ここには文系・理系を問わず、文章を書く際に誰もが心がけないといけないポイントがぎっしり詰まっている。本書で展開される「作文技術」の出発点は、「読者がその文書に何を期待し、何を要求しているか」をあらかじめ想定して適切に主題を選択することであり、主題が決まったら、わき道に逸れることなく(「一文書一主題」)、簡潔明瞭な言葉ですっきりと書き上げるのが、よい作文の流儀ということになる。

本書には主題の選び方から校正の仕方に至るまで、ひとつの文書が世に出るまでに辿るさまざまな局面での作法や技術が丁寧に解説されているが、応用できる範囲はより広い。「まず目標規定文(主題に関して主張したいことの核心をまとめた短文)を書いてみる」は、あるテーマについてリサーチをする際の出発点にもなるし、「事実と意見は分けて書く」は、さまざまな物事について他の人と議論をする際にきちんと守らないといけない大事な留意事項でもある。

作文技術の本というとマニュアル本のようなものが想起されるかもしれないが、本書にはその域を超えた味わいがある。中でも「はっきり言い切る姿勢」と題された6章には、あいまいさを残さず簡明に書くという著者のスタンスと、明言を避け婉曲的な表現を好む日本の言語習慣の間のせめぎあいが、文化的背景も含めて興味深く論じられている。「理性的な判断として私は、日本人は平均として自分の考え方をもっと明確に言い切らなければならぬと考える」と記しつつも、断定的に言い切ることに、はたしてそれでよいのかと「心の中で押し問答」をする著者の姿は、現在の日本に生きる私たちにも引き継がれている、ように思われる。

と、ここまで書き進めてきたが、この小文には本書に示された基本的なルールからの逸脱がすでにある。文章を書くという作業は、実に難しい…。

本文中にある3冊についても図書館に所蔵があります。

■ 庄司 薫 著『赤頭巾ちゃん気をつけて』 >> 080:C645:v.53 学部図書(地下1階)

■ 村上春樹 著『ノルウェイの森』 >> 913.6:Mu432n:v.1~v.2 学部図書(地下2階)
 >> 918.68:Mu433:pt.1:v.6 学部図書(地下2階)
 目白聖母キャンパス図書室

■ 城山三郎 著『官僚たちの夏』 >> 913.6:Sh896:v.2 学部図書(地下2階)



豆知識

「紀要」について

紀要とは、大学または研究所がその所属教員や研究員の学術論文を掲載する雑誌で、年1回発行のものが多くあります。明治20年代から学術論文は発表されてきましたが、紀要と記されたのは「東京帝国大学文科大学紀要」で、1914年(大正3)が初めてでした。全国の大学が紀要と称するようになったのは1952年(昭和27)からです。

上智大学中央図書館では、300誌以上を所蔵しています。紀要を読むと、その大学でどういった研究がされているのかを知ることが出来ます。ぜひ、色々な大学の紀要をご覧ください。中央図書館では、主に3階書庫の中央付近に配架されています。

参考文献：日本大百科全書(請求記号Ref:031:N715:v.6)

叡智が世界をつなぐ



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学図書館だより No. 22

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1
TEL: 03-3238-3510
FAX: 03-3238-3139
発行日 2016年1月1日
印刷 三鈴印刷株式会社
TEL: 03-5276-0811